

# 江戸川大学国立公園研究所から

執筆担当・佐藤秀樹

## 一. 環境学習見直しの背景

二〇二一年三月、千葉県では、二〇〇七年に改定した千葉県環境学習方針や環境教育等促進法に基づいた二〇三〇年までのアクション・プランとして、「千葉県環境学習等行動計画」を策定した。

環境学習とは、同計画の中で「単に環境問題についての知識を身につけるだけでなく、人と環境との関係性、環境と社会、経済および文化とのつながりについての理解を深め、問題解決に向けて行動できる人を育てるための教育・学習のことを指す」と定義している。

同計画が策定された背景には、千葉県環境学習方針がつけられてから一〇年以上が経過し、環境教育促進法の改正、国連によるSDGsやESDの採択、並びに国内

外の経済や社会の変容に伴い環境問題が複雑化していることから、環境学習の見直しが必要とされ、当該計画が策定されるに至った。

本稿では、当該計画から導きだされる千葉県の環境学習の現状、課題と今後の環境問題解決へ向けた行動のできる人材育成の方向性について考察する。

## 二. 千葉県民の環境配慮行動や環境保全活動への参加の現状

千葉県民の「日常生活における環境配慮行動」を見ると、二〇一八年度から二〇一九年度にかけては「配慮している」と回答した人の割合は、約八割の水準で推移していることから、環境保全に対して高い意識をもっていると言える。年代別では、三〇代以下の若年層の環境配慮行動に対する意識が低い状況となっている。

また、県内各地で実施されている水辺の清掃や里山保全のボランティア活動等の「環境保全活動への参加状況」を見ると、二〇一四年度から二〇一九年度までの「参加意向あり」の割合は、六割弱〜五割となっている。しかし、実際に「参加したことがある」人の割合は、二割台半ばと低い水準にある。年代別で見ると、六〇代以上で「参加したことがある人」の割合は比較的高く、四〇代以下の割合が低かった。

## 三. 千葉県における環境学習の課題

県が環境学習等に携わる県民、NPO、学校、事業者や市町村等に行なった意見交換会では、表1の課題が挙げられた。

表1 千葉県の環境学習に関する課題

- リーダーやコーディネーター等の人材が不足している。
- 若年層や関心が低い人に向けた情報発信・啓発手法が不十分である。
- 身近なところからの行動を促し、本県の特徴を活かした取組みが少ない。
- SDGsやESDの視点を取り入れた取組みが少ない。
- 様々な主体による連携・協働が不十分である。

出所：「千葉県環境学習等行動計画」15～16頁の内容に基づいて筆者作成。

以上から、千葉県の環境学習の課題として挙げられるのは、環境に対する意識が高まっているが、実際に環境保全の行動へ移すための具体的な取り組みが十分でないという結果である。環境問題に対して当事者意識をもち、パートナーシップで環境問題を解決していく環境リーダーの育成が一層求められる。

## 四. 千葉県における環境学習推進の方向性

今後の千葉県における環境学習計画の目標や推進に当たっての方向性は、次頁表2のとおりである。

この中で、複雑な環境問題を解決していくために重要なことは、多様な関係者による協働・連携である。特に、千葉県の各地域における特色を踏まえた分野横断的なパートナーシップを進めることで、環境問題解決へ向けた創造的な発想をつくりだす仕組み・組織づくりを模索していく必要がある。連携・協働は、SDGsの一七番目の目標「パートナーシップで目標を達成しよう」において重要な実施手段として位置付けられている。同時に、環境保全活動への参加に

